わたしたちの物語
～はじめは畑と音楽～

橋本弥寿子さん（74歳）＆大正大学社会福祉学科2年　河田和奏

私はね。鹿児島県で生まれたの。

私が小さい時は、父は船乗りで年に一回ぐらいしか帰ってこなかったの。

でも、おじいちゃんとおばあちゃんが近所の人を集めて、

実験農場みたいになってて

柑橘類や茶葉、梅にイチゴやイチジク、ニラやネギとか一日中収穫できたの

庭からそれを取ってきてお味噌汁に入れたり料理に使っていたの。

父がいない母子家庭のようなものだったんだけど、

家に人が集まるからさみしくなかったわ。

高校の時、鹿児島から横浜にでたの

隣に座っていた子がブラスバンド部でね

連れられて見学いったらたまたまフルートが一本あいてて



遠くで見ていたものが目の前にくるなんて思ってもいなかったからね。

大学に入学してフルートを続けていたからマンドリンクラブに入ったの。

そこで旦那と出会って結婚することになったの。

２０００年ごろ出会った人にほっと館子ども家庭支援センターのネットワーク事業を任されたの。

それで群馬県の甘楽町で食育や畑に触れる事業をすることになって

エコー広場っていうのが始まっていて
給食の残りを全部あつめて、それを発酵させ
群馬県の甘楽町で堆肥にして、有機農業研究会の人たちがね
有機野菜をつくって、エコー広場で販売して
北区の学校給食に入れたかったみたいだけど、
それは叶わなかったわ。

その後、子育て中のお母さんの働ける場所を作ったの。
『あかちゃんやおや』っていう名前とつけて。かわいいでしょう。
そのカフェでちょっとした料理やお弁当を出していたの。

移転した『あかちゃんやおや』を引き継いで
『めぐりや』っていうお店を開いたの。
日替わりカフェだったんだけど。
笑いヨガや英語も教える場所。
子ども食堂や音楽ライブもやったのよ。



みんな、どうしてそんなにいろんなことをできるの？って聞くけど、
私がひとりでやってるんじゃなくて、いろんな仲間がいる。
たくさんの仲間がいる。
私はそこに加わってるだけなんだって答えているわ。

令和８年10月８日

